



明倫の里 城北

ともひび

発行・城北コミュニティ 丸亀市御供所町一丁目5番20号
城北コミュニティセンター「明倫」☎25-2141

城北地区人口

世帯数	2,944 (+3)
人口	6,618人(+4)
男性	3,043人(+7)
女性	3,575人(-3)

(平成22年9月1日現在)

(カッコ内は平成22年8月1日比)

新企画で楽しさをアップ

第14回ほくほくふれあいまつり(城北コミュニティなど主催)は、10月10日(日)午前9時から午後3時まで城北小学校を会場に盛大に開かれます。『まち活性化』の願いを込めて今回も新しい企画を取り入れ、祭りを盛り上げます。



第14回
ほくほくふれあいまつり
10月10日・城北小運動場、体育館

声援が飛び交うスポーツ競技(昨年のふれあいまつりから)

体育館では

「やさしい木工工作」コーナーが新登場。エコ丸工房のスタッフが指導してくれます。また、保健師による「血流測定」が行われます。

やさしい木工教室も

運動場のスポーツ競技では、新しい種目が増えます。幼児から高齢者まで楽しく参加出来る人気スポットです。

二足走行ロボット実演のほかパソコン、ラジコン、科学おもちゃに触られます。さらに、科学おもちゃ(木登

りテント虫)作り教室(材料費500円)も開催。子供の絵画、生け花などの作品展示、幼児が楽しく遊べる「よい子の広場」が設けられます。

運動場イベントとして、「シートベルト着用効果体験車」が来訪。時速40kmで衝突した

楽しく和やかに

「城北地区敬老会開く」

城北地区敬老会(丸亀市、城北婦人会主催)が9月18日、城北小学校体育館で開かれました。今年の城北地区招待者

時のショックを体験できます。また、自転車の交通ルールテストをアンケート形式で行うことを計画しています。

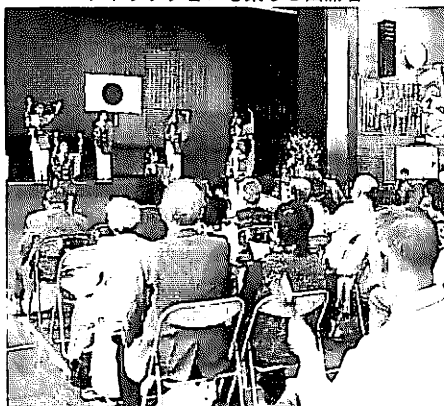
今回も明倫くじ(1枚100円)を販売します。一層充実した景品が考えられています。食べ物中心のバザーが今回も運動場や体育館に店開きします。秋の一日を家族みんなで楽しく過ごせる趣向です。

詳しい内容は各家庭に配布のプログラムをご覧ください。

(75歳以上)は、1153人(男性408人、女性745人)で、このうち約170人が出席しました。

来賓の祝辞に続いて城北小児童から出席者一人ひとりに、長寿を祝う手紙が手渡されました。このあと、舞踊グループ「みしま組・和楽」によるアトラクションがあり、会場は終始和やかな雰囲気にも包まれていました。

アトラクションを楽しむ出席者



地区最高齢は103歳の芥田波子さん(城東町二丁目)。会場に元気な姿を見せ、市から記念品が贈られました。

防災自主組
地域住民の安全第1
「自治会主体」に再構築

城北地区自治会長により、防災組織の再構築の検討会が8月22日城北コミュニティセンターで開かれました。

これまで「明倫の里自主防災会」で組織作り

を推進してきましたが、自治会が主体となって運用する方が、より効果的に出来るのではないかと検討がなされました。

8月28日をもって自治会主体の「城北地区連合自治会自主防災会」に組織替えされました。

自治会が主体となることで、市対策本部などからの指示も明確になり、避難場所の選定

安全安心なまちづくりのための視点

第16回いきいき講座（7月25日）は、昨年引き続き愛媛大学の二神透先生を招き、今回は、安全・安心なまちづくりのための視点というテーマで、御供所町をモデルにした震災時の火災消失状況のシミュレーション映像を見ながら講話を受けました。

その内容は、大震災に備えて①初期消火の重要性を地域住民全てが認識する②要援護者を支援する実動組織を確立する③安全場所への避難訓練を地域で継続的に実践する④地域内の避難連絡体制を整備す⑤延焼を遅らせるための植樹（緑の壁づくり）をする⑥コミュニティ活動の活発化は環境・福祉・防災の向上につながる——という、示唆に富ん

だものでした。80人余りの参加者の防災意識がより向上したと思われまます。（文化部会）

ゴーヤでストップ温暖化

6月「グリーン大作戦」と銘打って緑のカーテン普及事業に取り組み、丸亀市の「ストップアップ事業」の補助を受けて、ゴーヤ栽培セットを配布しました。約50人の方が参加され城北校区に緑を増やそうと取り組んでいただきました。参加者からは



緑のエコカーテン

●いつもは簾をかけていたが、ゴーヤのカーテンは見た目も涼しげで、葉が熱をすってくれ、室温も下がって良

かった。

●実は余り出来なかつたが、葉がよく茂り、カーテンになって暑さをやわらげてくれた。

●植物には余り興味がなかったが、世話をしているうちに楽しみになり、来年は自分で種から育ててみたい。

また、8月には、収穫したゴーヤを使って定番のゴーヤチャンプルやかきあげ・おなか炒め・きんぴら・ジュース等料理講習・試食会を行いました。今までゴーヤを食べべなかった人も「これなら食べられる。レシピを見て作ってみます。」と好評でした。



（環境部会）

新聞で楽しい親子遊び

「遊び創作集団クロッシンズ」の2人の先生を迎えて「親子遊び」を8月26日、城北小体育館で開きました。46人の



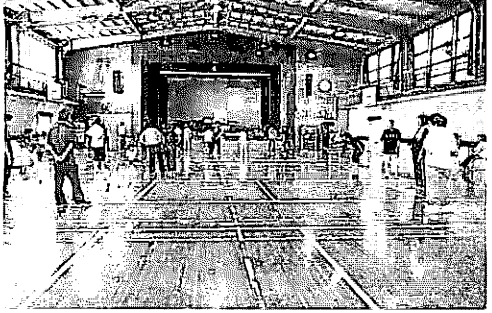
隣の剣が取れるかな

愛育班会員の親子が集まり、新聞を裂いてひっぱり力比べをしたり、新聞2枚をビニールテープで巻き「剣」を作りました。剣を床に立てて何人かで輪になり隣の剣を取る。剣にビニールテープを巻き付

や避難、ご近所での助け合い、情報交換等も、より便利になると思われます。災害はいつ来るかわかりません。そのためにも自主防災の組織作りが急務です。ご協力をよろしく願います。

初の室内ベタンク大会開く

7月18日、城北小体育館で城北コミュニティでは初めての室内ベタンク大会を開催。12組・40人の参加があり、初めてとは思われぬ熱戦でした。入賞チームは次の通りです。
 1位 エンジョイ
 2位 あじさい
 3位 若葉会A、フレンドリー



和気あいあいベタンク大会

（体育部会）

土居町いきいきサロンを訪ねて

丸亀市土居町二丁目では、地域の人達が毎月第3土曜日に集まって「ふれあいいきいきサロン」を開き、すでに4年目にはいつているとのこと。どうすれば地域の人達の交流を引き出せるのか、何かヒントがみつかるかも知れないと思ひ、8月21日サロンの場を訪ねてみました。

高木神社がその会場です。開始までに30分以上もあるのにすでに集まり始めていました。杖をついている人、連れ添って来る人、自転車で勢よく来る人などさまざま、サロンへの関心の高さが伺えます。会員は31人で、毎月集まるのは25人前後、運営については4班に分け、当番制で運営しているとのこと。今回のメインはフラダンス、会員であるベテランの尾松さんの指導です。フラダンスの由来の説明からはいり、足の動かし方、歌詞を手の形で表現する仕方(手話に似ていますが)、と順序よく手本を示しながらの説明です。いよいよ

参加者の出番、一緒に「イチ、ニイ、サン、シイ」とスタート

しましたが、うまく呼吸が合いません。何度か繰り返しやっていると、フラダンスらしくなってきましたが、予定時間を過ぎてしまいました。暑い中での緊張感後、準備された冷茶とお菓子を口に運

心のつながりを育むひととき



フラダンスで若返り

びながら、楽しそうな会話がはずみ、ホッとしたりひとときを過ごしました。参加者間の心のつながりを育む機会になつていくようです。土居町二丁目の住民間のまとまりが定着しているのを感じました。次は新聞紙半分を使ったジグソーパズル、二人一組の

チームを作り、チーム同士の対戦ゲームです。配布された新聞紙を10ピースに切り相手チームに渡します。スタートの合図で、元の形に復元です。皆さん、真剣な表情で取り組んでいました。

続けて、ふりふりグッパ体操。これは筑波大学の先生が研究・開発された体操で、脳の活性化に繋がることが立証された楽しい体操です。全国でたくさんの方が採用していることを知り、土居町サロンでも発足時から続けているとのこと。大きく書かれた歌詞をみながら手と腰をゆったりと動かし、大きな声で合唱します。曲目は「お座敷小唄」と「きよしのズンドコ節」です。この後、演歌を2曲合唱してお開きとなりました。午後1時30分から始まったサロンも予定通り3時に終了しました。笑いと拍手さらには歌声響くサロンでした。お茶とお菓子がでて、おしゃべりができるひとときがあり、しかもなつかしい唄をみんなで合唱する。少人数でも、こんなサロンが近くにできたと聞けば、「ちょっと行って見よ

うか」と腰を上げる人のため、小さなサロンを広げたいと、リーダーの芥さんは語っていました。

このサロンは、仲間づくりも果たしており、共に教材の研究に、また、ふりふりグッパ体操は、家庭での普及に、

地域づくり対象に コミュニティ 安心まちづくり 推進事業

香川県と丸亀市が共同で行う安心まちづくり推進事業の対象団体に9月17日、城北コミュニティが決まりました。

城北地区では、防犯パトロール隊が学童の見守り活動を続けています。今回の推進事業では、防犯パトロール隊を支援するためのキャンペーン実施、装備品配布などを予定。また、地区内の防犯灯のLED化も計画されています。



だねこいつな人

サロン情報の発信源としての役割を期待し、さらに、高齢者介護の現状から、介護予防にも視点をあてる関係機関のバックアップを願って帰途につきました。
(文・近藤顕一、写真・橋本 きみ子)

平城宮跡などを見学

城北コミュニティの平成22年度全体研修会が7月2、3の両日、京都・奈良で行われました。29人が参加しました。2日は京都市内の二条城、金閣寺、竜安寺などを見学。嵐山、嵯峨野にも足を延ばしました。

3日は雨の中、奈良に向かい、平城遷都1300年祭が行われている朱雀門や大極殿を見て回りました。朱雀門の北方約800mの所に大極殿が建っています。平城宮に都が置かれていた奈良時代、大極殿では天皇の即位式や外国使節との謁見など国の最も重要な儀式に使われていました。東大寺、興福寺、奈良公園も巡り、参加者は、いにしへの日本の歴史を学びました。



甘くておいしいトマトです

「食育」―食を営む―

平山保育所長

真鍋 輝美

今年、記録的な猛暑。この夏、平山保育所では「おはようございます」の元気な声とともにジョウロをもつて園庭の畑まで友だちと水やりに行く4、5歳児の姿で一日が始まりました。このように「食育」の大切な取り組みの一つに野菜の栽培活動があります。毎日

子どもの現場から

の水やりや草取りをし、太陽の恵みを受けて色鮮やかに育った夏野菜。額に汗して働き、収穫の喜びがあるのです。早速、もぎたてのトマトやキュウリを年少児に見せにいく白組さんの得意顔！年少児は採れたて元気野菜にびっくり。野菜を介して異年齢児と関わる力や繋がりがみられる、ほのぼのとした時間が流れます。この栄養満点の採れたて旬の野菜はその日の給食に並び

ます。おいしい給食をつくってくれた調理の先生に感謝して、苦手なトマトも自分が育てたものは特別。大きな口をあけてアーン。「甘くておいしい！」輝くばかりの子どもの笑顔が「食育」の大切さを教えてくれているようです。この輪が家庭にも広がり、人々と繋がる「おいしいね」と食べることを楽しみ、自分も含めて命を大切にする力を育てていきたいと思えます。

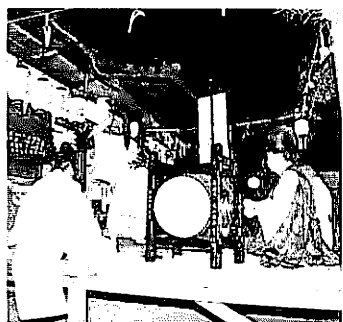
こしさん知っとんぱー

町内が活気づき大人も子供もワクワク楽しみにしているお祭り。城北地区にもいろいろな神社のお祭り、地域住民主導の祭りがあります。まず、これからのシーズンの秋祭りから紹介しましょう。

地域の祭り

【山北八幡神社秋祭り】

（山北町）10月16、17日）旧丸亀市民の氏神。3基のみこし渡御が有名ですが、今年のお旅所は妙見宮です。

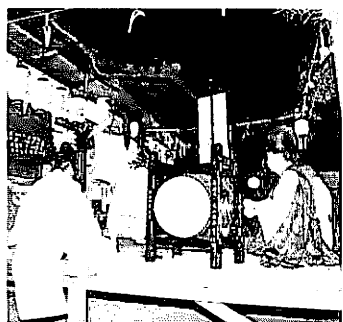


妙見宮の夜神楽

月23、24日）産巢日神社が正式名ですが、地元では親しみを込めて「妙見さん」と呼んでいます。23日には珍しい夜神楽奉納があります。24日は高木神社（土居町）へみこし渡御。子供くじ引きも楽しみ。

【田潮八幡宮秋祭り】

（土器町）10月16、17日）城北地区の一部が氏子になってお出掛けの参考にして下さい。



妙見宮の夜神楽

この夏行われたものです。日付は今年のもので。来年度のお出掛けの参考にして下さい。

【石の公園盆踊り大会】

（土居町）8月14日、15日）盆踊り、カラオケ、太鼓演奏なども

あとがき

異常気象で今年の夏は、13年間で一番暑い気温だった、と気象庁の発表もありました。

子供や高齢者は、真夏の暑さに熱中症などの対応が大変でした。

青空高く、食はずすみ、体は動きよく、天候も温和になり、秋も本番です。ほくほくふれあいまつりには元気で参加したいものです。（河原）

地名の由来

風袋町

340年ぐらい前の山崎時代は畑でした。山崎氏の後へ入城した京極氏は、前任地兵庫の龍野から連れてきた譜代の下級武士たちを丸亀城外堀の東北の、この地に移住させました。このため「譜代町」と言っていました。のちのち今の「風袋町」となりました。また、この町は足輕侍が多く住んでいたため、武家屋敷構えの町並みとなり、雑賀丁、鉄砲丁、餌護丁、中ノ丁といった武家屋敷が形成されました。